

ひかりのこ

4月園便り

聖ミカエル幼稚園

2015年4月8日

月主題：だいじょうぶ

今年は、例年に比べ、春の訪れが早いようです。園庭の雪が解けるのもあとわずか、外遊びできる日もいつもより早いことでしょう。

皆様、お子さんのご入園、ご進級おめでとうございます。

新しい年中さん、年長さんは春休み中元気に過ごしていただいでしょうか。年少さんや、新しく聖ミカエル幼稚園に入ることとなった年長さんの3人のお友達は、わくわくしながら始業式、入園式を待っていてくれたでしょうか。子ども達を迎えるために職員全員、春休み中に準備をたくさんしてきました。カード帳、お名前の表示、お誕生会カードの準備など。園舎の中も補助の先生が協力してワックスをかけてくださり、廊下もホールもピカピカです。準備万端整えて子ども達に合えるのを楽しみにしていました。

お父さん、お母さんにも、お子さんの幼稚園生活を支えるためにたくさんのご協力をお願いします。お弁当、登降園の見送り、お迎え。行事に必要な準備。大変でしょうが、お子さんが安心して活動できるよう、どうぞよろしく願いいたします。

毎朝、登園してくる皆さんを見て、「大変だなあ。でもいいなあ。懐かしいなあ。」と感じます。私も3人の子供を保育園や幼稚園へと、毎朝毎夕送り迎えしたものです。

特に長男は下の子ども達の育児休暇を利用して、年中さんから北区の「そうせい幼稚園」に通いました。私の家から幼稚園までは、牧草地の一本道でつながっています。長男とベビーカーに乗せられた娘と私。春になると牧草地のずーっと上空をひばりがピーチク、ピーチク鳴いています。長男とベビーカーを押す私は、車の入れない一本道をよーいどん！で競争です。ベビーカーの娘は足をバタバタさせて大喜び。そよ風と、牧草地の緑と、子どもたちの笑い声と、ひばりの鳴き声。今もよく思い出す光景です。（本当は雪の日も嵐の日もあったに違いないのですが、この光景しか覚えていません。思い出はそんなものです。）

今ではその牧草地は住宅街になってしまいましたが、私の大切な思い出です。

聖ミカエル幼稚園のお父さん、お母さん、今はちょっとした何気ない時間であったり、時間に追われた大変な時間かもしれませんが、幼稚園または送迎バスまでの行き帰り、お子さんと手をつないで歩く時間を、どうぞ楽しんでください。街路樹の移り変わり、鳥や虫、空の色。雪道の親子の足跡。お子さんが大きくなった時、その時間、その場面がかけがえのない素晴らしいものだったと思うことでしょう。

園長 渡部良子

キリスト教保育

「門をたたけ、そうすれば開かれる」

ご入園、ご進級おめでとうございます。

教会はいま、イエス・キリストの復活（イースター）を記念する時期を迎えています。全てのものが新しくされる希望の時に、こうして幼稚園の新しい一年が始められることを大変うれしく思います。幼稚園の先生方とともに、私を含め教会の者も、共にこどもたちの成長を見守り、お役に立てることを願っています。どうぞよろしく願いいたします。

安全で心地よい場所を離れて未知の領域へ出て行くことを「門出」といいます。まさに門を出て行くのです。そして、不安な気持ちを抱えながら、新しい門をくぐり、心とからだの全部を使って新しく出会う人の中で関係を作り育てていく。人生はその繰り返しであり、新入園のこどもたちにとっては、最初の「門出」かもしれません。当然、保護者の皆さんも期待と不安が入り交じった複雑なお気持ちのことと思います。

聖書には、人は神に似せて造られたと書かれています。ということは、普段は気づかないけれども、私たちは神様の性質を宿しているということです。キリスト教の神様はじっと天から人間を見下ろす静かな神様ではありません。人間と関係を保ち、人間を救うためなら自分の子さえ送り届ける（クリスマス）、チャレンジを惜しまない神様です。先日放送を終了したNHKの連続テレビ小説『マッサン』の主人公エリー（夫妻は聖公会の信徒でした）は、人生はチャレンジだと繰り返していました。その通り、私たちがチャレンジするのは、神様のチャレンジ精神がすでに植えられているからなのです。

神様は、信じて門を出、チャレンジする人を祝福し、そして必ず守ります。冒頭のイエス様の言葉はそのことを端的に示しています。この神様の安心の中で、私たち大人もまたご一緒に成長していきましょう。

チャプレン 司祭 下澤 昌